

市民版

パイプからプランターにうまく水がでるかどうかが確認する生徒たち

(京都市北区・紫野高)



自動散水ゴーヤー育て

洛陽工生が
装置開発

雨水と太陽光利用

紫野高

京都市南区の洛陽工業高の2年生7人がこ

る紫野高(北区)からた。

のほど、雨水と太陽光発電の自然エネルギーを動力にした自動水やり装置を開発した。装置は、音が静かなポンプを選ぶなど工夫を凝らし、1年間の試行錯誤の末、完成にこぎつけた。

開発は昨夏、ゴーヤーカーテンを作っていた。

雨水をためるタンク。太陽光発電を利用してポンプで水をくみ上げ、プランターへ水を送る仕組み



たまるポンプ付きタンクと、ホースとパイプを交互につなげた管で構成されている。パイプ部分は散水用に数箇所の穴を開けた。太陽光発電で動くポンプにはタイマーで好みの時間に水をくみ上げて水やりができる仕組みになっている。

ポンプは、授業の妨げにならないよう、無音で風呂の水をくみ上げる家庭用ポンプを選んだ。散水する管の穴はポンプの水圧を考慮し、タンクから遠いほど数を増やし、どのプランターにも均等に水をまけるようにした。

生徒たちは今月3日

に紫野高で装置の取り付け作業を行った。中部分を含ませて管をは始動させるとパイプの穴から水が流れ出した。

た。
リーターの福島聖太君(16)は「思った通りに水が出てほしかった。これでゴーヤーのカーテンがうまく育ってほしい」と笑顔を見せた。

(松田ゆい)